座長のまとめ（1－3）

中井義明（大阪市大）

本群の3題はネビュライザー療法による治療の基礎的実験であり、各々長年手がけている実験手段を使用して新知見を出されている。

兵氏らは鼻模型を使用し、ＵＤＶエアロゾル療法による薬液がどのような条件で最も多く鼻副鼻腔に侵入するかを明らかにされているが、ネビュライザー療法中、深吸気、嚥下、圧力附加などがその効果を多くすることが再認識せられた。三重大グループは家兎による実験でAminodeoxykanamycin、ヒスタグロビンが鼻粘膜より吸収されることを証明した。大阪市大グループは種々の程度のヒト副鼻腔炎の病態と線毛運動との関係を明らかにするとともにネビュライザー療法の際、硫酸テルブタリンを附加するとその治療効果が増大することを報告した。